**ソーシャルワーク実習　評価表**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 武蔵野大学　人間科学部　社会福祉学科　　　年 | 学生氏名 |  |
| 施設・機関名 |  | 施設長・院長名 |  |
| 実習指導者名 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 評価項目 | 評価 |
| 項目1　利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 |
| （1）クライエント等と人間関係を形成するための基本的なコミュニケーションをとることができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| 所見 |
| 項目2　利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成 |
| （2）クライエント等との援助関係を形成することができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| 所見 |
| 項目3　利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び計画 |
| （3）クライエント、グループ、地域住民等のアセスメントを実施し、ニーズを明確にすることができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| （4）地域アセスメントを実施し、地域の課題や問題解決に向けた目標を設定することができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| （5）各種計画の様式を使用して計画を作成・策定及び実施することができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| （6）各種計画の実施をモニタリング及び評価することができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| 所見 |
| 項目4　利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価 |
| （7）クライエントおよび多様な人々の権利擁護ならびにエンパワメントを含む実践を行い、評価することができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| 所見 |
| 項目5　多職種連携及びチームアプローチの実践的課題 |
| （8）実習施設・機関等の各職種の機能と役割を説明することができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| （9）実習施設・機関等と関係する社会資源の機能と役割を説明することができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| （10）地域住民、関係者、関係機関等と連携・協働することができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| （11）各種会議を企画・運営することができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| 所見 |
| 項目6　当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ |
| （12）地域社会における実習施設・機関等の役割を説明することができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| （13）地域住民や団体、施設、機関等に働きかける | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| 所見 |

|  |  |
| --- | --- |
| 評価項目 | 評価 |
| 項目7　地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 |
| （14）地域における分野横断的・業種横断的な社会資源について説明し、問題解決への活用や新たな開発を検討することができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| 所見 |
| 項目8　施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） |
| （15）実習施設・機関等の経営理念や戦略を分析に基づいて説明することができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| （16）実習施設・機関等の法的根拠、財政、運営方法等を説明することができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| 所見 |
| 項目9　社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 |
| （17）実習施設・機関等における社会福祉士の倫理に基づいた実践及びジレンマの解決を適切に行うことができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| （18）実習施設・機関等の規則等について説明することができる | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| 所見 |
| 項目10　ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 |
| （19）以下の技術について目的、方法、留意点について説明することができる・アウトリーチ | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| ・コーディネーション | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| 　・ネゴシエーション | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| 　・ファシリテーション | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| 　・プレゼンテーション | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| 　・ソーシャルアクション | Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・NA |
| 所見 |
| **総合評価（今後の課題）　　Ａ ・ Ｂ ・ Ｃ ・ Ｄ** |

＜記載上のお願い＞

１．下記を参考に、各評価項目 評価欄の該当するアルファベットに○をご記入ください。

※評価項目の具体的内容については別紙をご参照ください。

【評価基準】Ａ：十分できている（達成度が80％以上の場合）

Ｂ：ほぼできている（達成度が70％以上80％未満の場合）

Ｃ：ややできている（達成度が60％以上70％未満の場合）

Ｄ：あまりできていない（達成度が60％未満の場合）

NA：該当しない・体験していない

２．所見欄や総合評価、今後の課題について、ご記入をお願いいたします。